

挑新次 戦。た代へ

丹後織物

No.
873

2020.1.15

2020
丹後ちりめん創業300年

TANGOORIMONO

発行所 丹後織物工業組合 京都府京丹後市大宮町河辺3188 TEL0772-68-5211 FAX0772-68-5300 <http://www.tanko.or.jp>



丹後織物工業組合所蔵
昭和31年(1956年)縫取訪問着 × シーラ・クリフ

2020 Tango-Chirimen 300 year anniversary

2020 丹後ちりめん創業300年

伝統と革新。 日本から世界への転機。

2020年、丹後産地を代表する絹織物「丹後ちりめん」は創業300年を迎えました。

1300年つづく絹織物産地「丹後」に、革命的な変化を与えた「丹後ちりめん」は、今から300年前の1720年に郷土人たちの手によって生み出され、丹後地域に“活気”と“富み”をもたらしました。伝統技法を護りつつ、職人たちの技術力、高度な加工技術により「ものづくり」の進化を続ける丹後産地は、丹後ちりめんをはじめ、京都・西陣の生産基地として、日本の和装文化を支える日本一の絹織物産地を形成しています。

さらに、職人たちの挑戦は和装分野にとどまらず、洋装、インテリア分野などへ拡がりを見せ、職人たちの感性から創り出される織物は、国内外の名だたるブランドからも高い評価を受けており、市場に新たな風を吹き込んでいます。

糸を「撚る」こと、それを巧みに「織る」ことを可能にした職人たちの技術は進化を続けながら、今なお世界最高水準の技術として受け継がれています。

丹後ちりめん創業300年は、伝統に裏打ちされたブランドをもとに、新時代の「はじまり」の年となります。

次なる100年に向けて…。

■ 丹後ちりめんの歴史は、生地表情〈テクスチャー〉の歴史



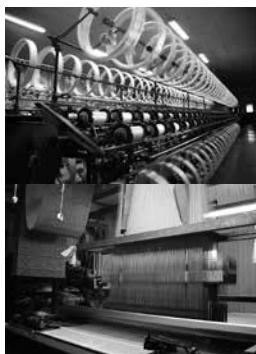
丹後は1300年以上前から絹織物の産地であった歴史をもちます。

江戸時代に京都西陣で「お召ちりめん」が誕生した後、丹後の織物は「田舎絹」と呼ばれ、売れ行きが低迷。農業の凶作と重なり、人々の生活は極めて困窮しました。その危機を乗り越えようと、京都西陣に赴き、ちりめん織りの技術を持ち帰った数名の先人たちがいました。帰郷後、独特の「シボ（生地の凹凸）」を持ったちりめんの生産に成功し、これが丹後ちりめんの始まりとなったのです。彼らはその技術を人々に惜しみなく教え、瞬く間に丹後一円に広まりました。

丹後の職人たちは300年の間、各時代の和装シーンにいくつもの主流商品を生み出してきました。生地が透けて見える縞ちりめん、色糸・金銀糸などを織り込む縫取りちりめん、上品な光沢を放つ緞子ちりめんなど、撚糸と織り技術の応用によって様々な「表情〈テクスチャー〉」の素材が誕生しました。その結果、戦前から丹後は日本一の絹織物生産地となり、今やそのシェア※は全国の約70%にも上ります。そしてその挑戦は、今なお続いています。

※日本で生産される和装用後染織物（表地）の数量、（一社）日本絹人織織物工業会の資料に基づき試算

■ 世界最高水準の表情を生み出す「撚糸 × 織り」



撚った糸＝撚糸を使って織物を織ることは、非常に難しい…経糸の張力、緯糸を打ち込む回転数の調整など、経験によってしか得られない複雑な感覚が求められるからです。しかし丹後ちりめんの職人は永きに渡る技術の蓄積により、呼吸をするがごとく撚糸を自在に操り、世界的に見ても希少な表情を持つ生地を織り続けてきました。

その表情の本質は、生地が3次元の奥行きを持つということ。糸が縮む力を利用して生み出す独特の凹凸「シボ」は、本来平面的である織物に立体感を与えます。撚糸一つをとっても糸の合わせ方や撚り回数など、組み合わせにより数え切れないほどの種類の緯糸が存在します。職人たちは組織の違いなどをかけ合わせることによって、生地表面に様々な表情を作り出してきました。

今、世界が「面白い」と着目し始めている丹後ちりめんの生地の表情〈テクスチャー〉は、ここ丹後でしか実現できない世界最高水準の技術なのです。

■ 多様性の時代、世界へ向けて

2005年から海外展開に挑戦する丹後の精鋭たち。その成果は、世界的なブランドが丹後の生地を活用する形で現れています。フランスのファッションショー「パリコレ」での出品作品や、ハリウッド映画の衣裳、音響ブランドによる高級スピーカーの装飾など、文化の違う他国の声を粘り強く聞き、製品に反映させることで、ヨーロッパの高級ブランドの製品に継続的に採用されている例もあります。

丹後ちりめんの伝統を活かしつつも、新しい技法やデザインを取り入れたブランド「TANGO OPEN」を立ち上げ、和装にとどまらない、ライフスタイル全域への商品開発にも挑戦を続けています。

丹後の織物技術はこの多様性の時代にも、世界に通用する技術です。それは夢の世界の話ではなく、いまこの世界で起こっている現在進行形の事実です。



tanko.or.jp

f 丹後ちりめん創業300年

丹後ちりめん創業300年事業実行委員会

〒629-2502 京都府京丹後市大宮町河辺3188番地（丹後織物工業組合内）

TEL 0772-68-5222 FAX 0772-68-5300

Mail 300info@tanko.or.jp WEB <https://tangoopen.jp/>

丹後ちりめん®

TANGO OPEN
TANGO KYOTO JAPAN



令和二年 年頭所感



丹後織物工業組合
理事長

今井 英之

新年あけましておめでとうございます。

組合員の皆さまには、ご清祥のうちに新しい年を迎えられたことと、お慶び申し上げます。

さて、活況を呈する和装のレンタル市場ではありますが、全国和装産地への波及効果は乏しく、丹後機業を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いております。この状況を打破すべく、行政支援のもと集散地また首都圏における展示商談会の開催や9月にフランス・パリでの展示会「メゾン・エ・オブジュ」への出展、11月には同国リヨンで開催された国際的な絹フェスティバルである「Silk in LYON」へ組合として初めて出展するなど、新販路・新分野の開拓等振興対策を進めているところであります。

さらに、今年は当地に「丹後ちりめん」の生産技術が確立されて300年を迎えます。この機を産地再興の出発

点とするべく、丹後産地が抱える課題を整理、再認識したうえで、産地が有する技術力・強みと機会を背景に和装はもとより洋装、新分野への展開、技術を継承し産地を支える若年従事者の確保・育成に努めていきたいと思えます。またインバウンドを含め丹後地域における交流人口の増加を絶好の機会を捉え、地元観光業界とも連携し、丹後織物の魅力を多面的に情報発信する産業観光も取り入れながら、持続可能な産地形成を目指していきたいと考えています。

伝統ある絹織物産地として次世代へ技術を伝承するためには、国内外から和装、洋装、インテリア等の業界からデザイナーやバイヤー、またきものファンなどが訪れることにより、需要増進を図らなくてはなりません。「次代へ、新たな挑戦。」を今年の産地テーマに掲げ、グローバル市場も見据えたライフスタイル全般の多種多様で上質

な丹後織物製品をワンストップで見ることのできる常設展示、高感度な産地製品を購入することができると、また丹後織物への理解を深めていただくための産業観光、情報発信の拠点となる「TANGO OPEN CENTER（仮称）」の整備について検討を進めているところです。このため本年は、同センターのオープンに向け試行的な展示販売事業として、民間の協力を得て、丹後地域内に「TANGO OPEN」などのシルク商品が購入できる場を作っていきたいと考えています。

今年2020年の「丹後ちりめん創業300年」を新たな産地の出発点とし、丹後織物産地が国内外から注目されるものづくり産地へと発展できまよう、組合員の皆さまの格段のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

賀正

理事長

今井 英之

副理事長

田茂井 勇人

副理事長

安田 章二

先染代表理事

松田 忍

代表監事

田茂井 康博



夢や希望を実現できる年に

京都府知事
西 脇 隆 俊

新年あけましておめでとございます。

府民の皆さまにおかれましては、つがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返って

昨年は新天皇が即位され、平成から令和へ、新しい時代が幕を開けました。令和という元号には「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ」という願いが込められております。日本文化の中心である京都府として、府内の多様な地域文化を世界へ発信していく務めを改めて自覚する契機ともなりました。

振り返りますと、6月のG20大阪サミット、9月のI C O M（国際博物館会議）京都大会、そして先のラグビーワールドカップ2019日本大会と、折々に多くの観光客の皆さまにお越しただき、世界中から日本が、そして京都が注目される一年でありました。

さらに、京都大学ご出身の吉野彰氏がノーベル化学賞を受賞され、二年連続で京都ゆかりの方が栄誉に輝くとい

う大変うれしい出来事もございました。

一方、京都アニメーション第一スタジオの放火によって多くの方々が亡くなるという大変痛ましい事件も起こりました。衷心よりお悔やみを申し上げますとともに、今なお治療を続けておられる方々の一日も早いご回復を祈念申し上げます。京都府といたしまして、引き続き、被害者やご家族の皆さまに寄り添った支援をしてまいります。

「京都夢実現プラン」始動

われわれが置かれている社会情勢を見渡すと、少子・高齢化と人口減少の本格化に加え、グローバル化の進展によつて国際情勢の変化がわれわれの生活にも直接影響を及ぼす状況にあります。また、頻発する自然災害など多くの課題が横たわっています。これらに対応するため、京都府では昨年10月、府政運営の指針となる新しい京都府総合計画「京都夢実現プラン」を策定いたしました。

この総合計画は、「一人ひとりの夢

や希望が全ての地域で実現できる京都府」という2040年の将来像をめざし、行政分野や地域ごとの具体的な取組方策等を定めたものです。府民の皆さまや地域、企業などと共に取り組みを進め、総力を結集し、めざす将来像の実現に向け果敢にチャレンジしてまいります。

京都の潜在力を生かすために

本年は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京2020」）が、そして来年にはワールドマスタースeriesゲームズ2021関西が開催されます。こうした機運の中、府内初となる専用球技場「京都スタジアム」が完成し、迫力のあるスポーツイベントを臨場感いっばいに楽しんでいただけになりました。同スタジアムを京都府中北部地域へのゲートウェイとして地域活性化を図るとともに、スポーツを通じて関西一円を元気にしてまいります。

そして、東京2020の開催に合わせ、日本の美を体現する「日本博」が文化庁主導のもと全国で開催されます。この機会に京都府では「京都文化プロジェクト2016・2020」の総仕上げとなる総合的な文化の祭典を開催するほか、2021年度を目標とする文化庁の本格移転を見据え、文化の保存、継承、創造、発展にも力を注ぎます。

また、伝統産業とその技を生かした新技術、観光・文化産業、ハイテク産業が三位一体となり、さらに大学等が

集積した京都の潜在力を大いに発揮することが求められます。京都経済百年の計となる「京都経済センター」を核に、起業から成長支援、海外展開、人材育成まで、イノベーションが起こり続ける事業環境の創造を進めてまいります。

共に、新しい時代へ

こうした取り組みの源は人であり、ます。就任以来、一貫して進めてきた「子育て環境日本一」の実現に向け、2040年までに全国平均並みの合計特殊出生率を達成するべく「子育て環境日本一推進戦略」を策定しました。この目標の達成は容易なことではありませんが、「水滴石を穿つ」と申します通り、粘り強く取り組んでまいります。

今年は、十二支の始めである子年。『漢書』律曆志によると、新しい生命が種子の中に萌し始める状態を表しているとしております。この新しい年を、府内全ての地域が活力にあふれ誇りを持てる、新しい時代の京都を築き上げるための第一歩とするため、共に歩んでまいります。

今年一年の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。

年頭所感



京都織物卸商業組合

理事長

野瀬 兼治郎

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましては、2020年の新春を迎え謹んでお慶び申し上げます。

さて昨年の世界情勢は、一昨年に始まった米中の貿易紛争が継続しており、大国の覇権争いが国際社会の不安定要因となっているほか、中国景気やIT需要の下振れ、英国の合意なきEU離脱によるマインド低下、欧州景気低迷による南欧の金融不安の高まり等も要因となっております。国内情勢では、改元と五輪関連で盛り上がりを見せる中、景気については先送りされていた消費増税による反動減、また台風被害等の自然災害も経済に大きな影響を与えた年でした。

一方、我々業界を取り巻く環境は依然厳しい状況が続いている中、商慣行の見直しやITへの対応等将来を見据えた業界全体の取り組みが始まっています。昨年開催されたラグビーワールドカップでは日本代表が健闘され、感動や喜びを日本中に与えてくれたことは記憶に新しいと思います。これまでも、攻撃的、積極的な試合で観客にわかりやすく楽しみやすくするため、様々な戦術やルール変更が行われてきました。呉服業界も時代や世代、商慣

行、流通等が変化する中、地域によって異なる趣味や嗜好を考慮に入れ、変化していく必要があります。そんな中、経済産業省和装振興協議会にて策定された「和装の持続的発展のための商慣行のあり方について」（17条の指針）を業界全体で取り組み、産地の生産体制維持や消費者が安心・満足して楽しめるきもの市場を創っていくため、流通の中心に位置する卸売業としてリーダースhipを発揮して事業を推進すべく取り組んで参ります。また、積極的に異業種との連携を行うことで、将来に繋がる多様な可能性を模索して参ります。洋装・寝装については、ネット販売を中心とした流通の変化に対応する取り組みを推進して参ります。

本年は庚子（かのへ）年であり、冷静な閃きとクレバーな行動で転身し、新しく始めることがとてもうまくいくことを意味していると言われています。次の半世紀に向けて、気持ちも新たに色々なチャレンジを始める1年にすべきと考えておりますので、皆様方のご協力が不可欠であることは言うまでもありません。結びにあたり、本年が皆さまにとって良い年でありますようご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

持続可能な西陣織の産地づくりに向けて



西陣織工業組合

理事長

渡 邊 隆 夫

新年明けましておめでとうございます。元号が改まり令和最初のお正月を迎えました。組合員の皆さま、産地関係者の皆さまには、ご家族お揃いで清々しい新年をお迎えにられましたこととお慶びを申し上げます。

旧年中は、西陣織工業組合の運営に對しまして、格別のご支援ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて昨年は、皇位継承・新元号令和のスタートをはじめ、内外ともに話題に事欠くことがない一年でありました。国際的には米中貿易摩擦、日韓問題、たび重なる北朝鮮の飛翔体問題など多岐に及び、また国内的には、消費税の10%増税のほか、年ごとに悲惨さを増す自然災害などが挙げられますが、明るい話題としてはスポーツ界で若手の華々しい活躍が続いたことであります。じつに爽やかで期待あふれるものであります。

このような中で西陣織産地ですが、持続可能な産地づくりを目指して「地域組合への転換、チャレンジ」を打ち出して本年で3年目となります。組合員はもとより関連工業の皆さまからも地域組合について「よう分からん」とのお声もいただいておりますが、その第一歩は

関連工業をはじめ織物周辺の事業所さん、職人さんと一体となつて産地振興に取り組むことであり、そのための組合の施設と体制を整備し、分業システムを再構築することにあります。

地域組合づくりの第二は、西陣地域が有する歴史・文化、観光・産業などさまざまな資源と一体となつて力強い地域ブランドを構築することにあります。地域組合を通じて、地域との共生、地域への貢献、大学生を含む地域の皆さまとの共創を図りながら、持続可能な産地づくりを目指すものであります。

消費者離れが顕著な和装業界においては、消費者の信頼を取り戻すための商慣行は正の取り組みも進展しており、つくり手に対する適切な利益配分の推進とあわせまして、今後さらに関連業界や全国産地と連携して効果ある産地振興に取り組んでまいります。

西陣産地をとりまく環境は引き続き厳しい状況にありますが、組合員はもとより地域の皆さまと一丸となつて、新たな時代での産地づくりに邁進する所存であります。

本年も変わりますぜひご指導ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

年頭所感



株式会社 商工組合中央金庫
京都支店長

吉 田 憲 太

令和2年の新春を迎えるにあたり、所感の一端を申し述べて年頭のご挨拶とさせていただきます。

昨年のわが国経済を振り返りますと、中小企業の景況感は、中国向け輸出の弱含み等を背景に製造業には減速感がみられた一方で、非製造業は底堅い個人消費に支えられ、高水準を維持しました。ただし、人手不足を感じる中小企業は多く、引き続き、労働需給の逼迫による人件費負担の増加等が懸念されます。また今後、人口減少時代の本格到来やグローバル化の一層の進展により、中小企業の経営ニーズは、一段と高度化・多様化することが考えられます。

このような中、私も商工中金は、「商工中金経営改革プログラム」に沿って、「経営支援総合金融サービス事業」へ転換し、真にお客さま本位で長期的な視点から、中小企業及び中小企業組合の価値向上に貢献するという基本的な考えの下、お客さまとのリレーションを深化させ、真のニーズや課題に応じた最適なソリューションを提供してまいります。

具体的には、経営改善、事業再生および事業継承等を必要としている中小

企業の皆さまや、リスクの高い事業に乗りだそうとしている中小企業の皆さまに対する支援に重点的に取り組んでまいります。そのために、日頃からのリレーションを通じてお取引先の課題やニーズを深掘りするとともに、地域金融機関や外部専門機関との連携・協業を密にしなが、当金庫の特長を活かしたソリューションを提供できる体制の整備と高度化を図ってまいります。

また、こうしたビジネスモデルを実現するために、引き続きコンプライアンス意識の徹底や内部管理態勢の強化に取り組むとともに、ビジネスモデルの実現に向けて職員が能力を最大限に発揮できる人事制度の構築、ダイバーシティの推進等に取り組んでまいります。

「中小企業による、中小企業のための金融機関」として、皆さまから信頼され、支持され、これまで以上に役割を続けてまいりますので、今後とも格別なご指導とお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

年頭にあたり、皆さまのご繁栄とご健勝をお祈りいたしましてご挨拶いたします。

地域活性化の実現に向けて



京都北都信用金庫
理事長

森 屋 松 吉

明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては令和初のお正月を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

政府の月例経済報告によりますと、景気は緩やかに回復しているとのことですが、当地域経済は、引き続き景気回復の実感のない状況が続いています。当金庫調査の10・12月期景気動向調査による経営者の景況判断は「マイナス^{22.5}」となり、4四半期連続の悪化となつています。なお、観光業の景況判断は「プラス^{22.6}」となり、4四半期連続のプラスとなっています。

このような中、丹後織物産地は和装市場の縮小などにより厳しい経営環境下にありますが、昨年は首都圏における産地単独の展示商談会の開催（丹後織物総合展）や学生と織物事業者が連携したものづくりなど、将来を見据えた積極的な新商品開発や販路開拓、産地を支える生産基盤再構築などの取組みが展開されました。

本年は「丹後ちりめん創業300年」を迎えます。この記念の年を千載一遇の好機と捉えて、地域が一丸となつて様々な取組みを計画的に展開されることを期待いたしております。丹後織物

産地の商談機能や産業観光の場としての機能（観光客へのちりめん販売等）などを併せ持つ「タンゴオープンセンター（仮称）」開設に向けた構想が進展していくことを願っています。また、東京オリンピック・パラリンピックを機に、レンタル着物市場などでインバウンド需要が増加することも期待しています。

当金庫は、2015年度策定の10カ年長期経営計画のビジョンに「地域活性化の実現とほくとしんきんブランドの確立」を掲げ、地域が元気になるように役職員一丸となって頑張っております。職員には、「お取引先の売上げが伸びるように何でもやろう」、「交流人口を増やそう」と言い続けています。

日々の業務では、ビジネスマッチングの取組みをはじめ、ものづくり等補助金・交付金の申請支援（2019年度40社）、事業継承支援、全国の信用金庫に呼び掛けるの団体旅行誘致（2019年度5千3百人）などの取組みも行っています。団体旅行でお越しの皆さまには、当金庫役員が歓迎挨拶を行うとともに、丹後ちりめんの風呂敷を全員にプレゼントするなど、丹後織物産地発展に貢献しています。

結びにあたり、丹後繊維産業のますますの発展と、皆さま方のご繁栄・健康を祈念いたしまして、新年のご挨拶

とさせていただきます。
本年もよろしくお願い申し上げます。

次なる飛躍の一〇〇年をともに歩む



株式会社 京都銀行
取締役頭取

土 井 伸 宏

2020年の年頭にあたり、謹んでご挨拶を申し上げます。

昨年のわが国経済は、米中貿易摩擦の激化や海外経済の減速を背景に企業の輸出・生産活動で弱めの動きが続きましたが、個人消費は緩やかな回復基調で推移しました。本年は、不透明感が増す局面も想定されるものの、消費増税の影響で落ち込んだマインドが東京オリンピック・パラリンピックに向けて回復していくとともに、内需関連の設備投資が引き続き堅調に推移し、世界経済の成長力も持続するものと思われま

す。こうした中、丹後地域におかれましては、本年、丹後ちりめん創業300年という一つの節目を迎えることとなります。古くから、出雲文化と大和文化の交流地点である丹後地域は独自の文化が開かれており、1270（1290）年程前の天平年間に既に聖武天皇へ絹織物が献上された歴史が残っております。中世以前に育まれた高い技術力・文化力と気候・風土を土台とし、近世の先端技術を取り入れること

で、飛躍的にちりめんの一大産地を形成するに至りました。300年の歴史においては、人々の生活様式の変化のほか、産業構造の転換など幾多の試練に直面した時期もございました。それを乗り越え、わが国が誇る文化として在り続けられていることは、先人も含めた多くの方々の不断の努力の賜物であり、その精神性は現在のこの地域にも脈々と受け継がれているものでございます。白生地を中心とした時代から小物、そしてインテリアへの展開、また、パリをはじめとする海外への積極的な展開、300年を経た現代においても、新たな挑戦を続けることで、新たな地平を開こうとされております。当行も戦後復興期における資金逼迫期、バブル崩壊後の金融変革期など数々の難局に直面しましたが、創業時からの理念であり、また当行の企業文化として根付く「地域社会の繁栄に奉仕する」という姿勢で以て、地域、そして地域の方々が抱える課題の解決に真正面から取り組んでまいりました。嘗てと異なり、今は少子高齢化、人口

減少、地域の存続可能性が喫緊の課題として横たわっております。容易に解が導き出せるようなものではございませんが、当行も旧来型のビジネスに拘泥することなく、この地域に根差す精神性を受け継ぎ、ビジネスエリアを広げ、また従来の枠を超えたコンサルティングの提供などの新たな取組を通じて、試行錯誤を繰り返しながら、「お客さまの期待に応える銀行」であり続けるよう邁進しております。何卒、本年も宜しくお願い申し上げますとともに、みなさまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。




丹後繊維工業組合

**企画展
開催**

2020 丹後ちりめん創業300年

300年の歴史と未来に向けて

期 間 2020年1月18日土～1月26日日

時 間 9:30～20:00

場 所 加悦谷ショッピングプラザウйл
ふれあい広場
(京都府与謝郡与謝野町字温江5番地)

観覧無料

【お問い合わせ】
 丹後繊維工業組合 総務一課（京都府京丹後市大宮町河辺3188番地）
 TEL 0772 68-5211 / FAX 0772 68 5300
 WEB <https://www.tanko.or.jp>



第70回 丹後織物求評会 開催

去る11月13日(水)～15日(金)の3日間にわたり、丹後織物の品質、技術力の向上と組合員の販路開拓また丹後産地をPRする「丹後織物求評会」を京都市の丸池藤井ビルにおいて、「TANGO BEGINS TO MOVE」をテーマに開催しました。

初日の13日には組合員32業者より出品された193点の作品について、高橋忠嗣氏(大高株式会社 代表取締役会長)を審査委員長に総勢16名の審査員により、市場性・織り技術などを基準に審査が行われた結果、経済産業大臣賞に「菱組(駒組)」(安田織物株式会社・与謝野町)が選出されるなど15作品が入賞しました。また後染織物で「八丁撚糸」を使用した作品を対象とした「日本遺産特別賞」には、「キヌチ帯揚」(有限会社 梅徳機業場・与謝野町)が経済産業省製造産業局長賞とあわせダブル受賞しました。今回も「男のきもの」をクローズアップし、特別審査として7業者より出品された17点の作品について、審査員及び14日の来場者による投票を行った結果、最高賞である「伊達男・きもの賞一席」に「御召 ダイヤチェック 黒」(株式会社ワタマサ・与謝野町)が選ばれました。

14日には鈴木一弥京都府商工労働観光部長をはじめ多数のご来賓出席のもとオープニングセレモニーを行い、2日間に及ぶ展示会が開幕。延べ2日間で約570名の来場者があり、会場内ではアテンドしている出展者に対し展示品について問い合わせる姿が多く見受けられました。

企画展として、絹友会PRブースや産学公コラボ作品、京都府織物・機械金属振興センター試作品・事業成果品、「2020年丹後ちりめんオリジナルきものカレンダー」にて使用のきもの、一般社団法人イマジンワンワールド主催の「KIMONOプロジェクト」へ参画し、丹後の技術の粋を集めアルゼンチン共和国をテーマに製作した振袖・帯、昨年6月の「ファッションカンタータ」で披露した男のきものを展示しました。

また、「京丹後市新シルク産業創造館」と「与謝野シルクプロジェクト推進協議会」による丹後での養蚕の取り組みの紹介を行いPRに努めました。

なお、表彰式を12月20日開催の理事会の席上にて執り行い、今井英之理事長より各受賞者に表彰状、副賞がそれぞれ授与されました。



経済産業大臣賞を受賞の安田織物(株)安田章二氏

入 賞 作 品	経 済 産 業 大 臣 賞	第1部	菱組(駒組)	安田織物(株)
	中 小 企 業 庁 長 官 賞	第2部	御召 令輪華文	(株)ワタマサ
	経 済 産 業 省 製 造 産 業 局 長 賞	第1部	帯地 先練三重織 華紋に唐草	(株)ワタマサ
	〃	第1部	キヌチ帯揚	(有)梅徳機業場
	農 林 水 産 省 生 産 局 長 賞	第2部	先染三重織 黒地網代格子	篠春織物(株)
	近 畿 経 済 産 業 局 長 賞	第1部	波組(駒組)	安田織物(株)
	京 都 府 知 事 賞	第1部	紋古代 段角通し	篠春織物(株)
	〃	第1部	帯揚 双翼	織元金重
	全 日 本 き も の 振 興 会 会 長 賞	第1部	糸把紋意匠 モザイク麻の葉	田勇機業(株)
	京 都 織 物 卸 商 業 組 合 理 事 長 賞	第1部	経紬 本古代帯	田勇機業(株)
	日 本 絹 人 織 織 物 工 業 組 合 連 合 会 理 事 長 賞	第2部	LIVELY BOOK SHELF	柴田織物
	日 本 絹 人 織 織 物 工 業 会 会 長 賞	第1部	先染 角通しに七宝ウロコ	篠春織物(株)
	織 研 新 聞 社 賞	第2部	水玉ブロック	江原産業(株)
	丹 後 織 物 工 業 組 合 理 事 長 賞	第1部	新変わり古代	田勇機業(株)
	〃	第1部	衿地 三重織 波模様に亀甲	(株)ワタマサ
	【特 別 賞】			
	日 本 遺 産 特 別 賞	第1部	キヌチ帯揚	(有)梅徳機業場
	【特 別 審 査】			
	伊達男(ダンディズム)・きもの賞 一席	第3部	御召 ダイヤチェック 黒	(株)ワタマサ
	伊達男(ダンディズム)・きもの賞 二席	第3部	ドット ストライプ	江原産業(株)
	伊達男(ダンディズム)・きもの賞 三席	第3部	Land Landscape RUST WALL	柴田織物

※第1部…後染織物 第2部…先染織物 第3部…男のきもの

各部門審査講評

第1部（和装着尺）

〔全体所見〕

- 出品作品のクオリティーには毎年感動している。今回は、地紋の大きい素材が多く見受けられた気がした。市場がフォーマルからカジュアルにギアが変わっている昨今、素材産地としても時代に即した対応をしていることの一例だと思う。
- 日頃から努力して商品づくりされていることが、作品から伝わってきた。意匠も斬新なものが多く感動した。素晴らしい！
- 例年に比べると、少し大人しい作品が多かったように感じた。十二支の長襦袢地などは、販売の際に「語る」ことができる、セールストークになる作品だと思う。今後、ますます消費者目線でのものづくりを期待する。
- 柄のない無地の織物こそ、経糸、緯糸の準備、織り、精練、仕上げの全工程の精緻さが求められ、丹後産地の技術の高さがよく分かる。
- 各社、自社の技術を活かした作品が多く見られた。特に薄物は少ないながらも良品が見られた。
- 丹後織物の伝統技術を活かした糸づくり、意匠、織りの各々良いものが出品されていた。また、冬物から夏物と幅広く出品されていて良かった。
- 今回はとても難しい審査になった。特出するくらい目に付く作品が少なく、反面、目に付かないというわけではなく、普通に良い作品が多かったのだと思う。文様については、実際に着たときのことを想像すると、細か過ぎたり大き過ぎたりしたように思う。
- 派手でインパクトのある柄が多かったという印象。水玉のぼかしの作品が個人としては一番気に入っておりお洒落だと思った。あとは、5本紵でもない3本紵でもない変り紵が今まで見たことのない商品だったので、おもしろいと思った。
- 日本の気候の変化で、最近では暑い日が長く、和装を取り巻く環境も大きく変化する兆しがある。袷の需要より夏、単衣感覚の素材を求められており、そういった意味ではトレンドに合った素材が多く見られた。逆に意匠（柄、デザイン）といった面では、こだわり、趣味性がとても強く出た作品が多く、後染めの立場からするととても扱いにくい作品がいくつか見られた。
- 今回、例年以上に創意工夫された作品が多いと思う。特に最近、細かな柄一辺倒だったが、紋意匠に大きく楽しい柄が増えたと感じる。薄物に関しても最近、スリーシーズンコートが流行っているので、それに適応した地柄で楽しめる作品が多いと感じた。とてもバリエーション豊かになり、良い傾向だと思う。

〔産地へのアドバイス〕

- 我々、染工房は生地に対して左程、選別感はなかった。昨今、ものづくりメーカーの意見は最優先が否めないが、消費者目線のものづくりをお互い研究していきたいと思う。
- 着用シーンを考えた、消費目線で商品づくりをお願いします。
- きものの基本となる事業なので、400年を目指してお願いします。
- 求評会では、和装にこだわらず丹後の織物が広く色々な分野に展開できる可能性をもっと示してほしい。
- 受注生産が基本と思われるが、市場の動向についてアンテナ

- ナを立て、ものづくりに活かす時代になってくると考える。
- 友禅用生地と無地染め用の織物が以前のように分かれず、どのような染加工でも合う素材や意匠が今後は使用度が大きくなっていくような気がする。
- 世界一の高品質の丹後織物を日本人にもっと正統に評価されるよう、業界が盛り上がりなければならない。今回、第1部で一番評価が高かったのは夏物であるが、夏物をお召しになる方はまだまだ少ない。デメリットとして自分で洗えないとよく耳にするので、洗濯機OKの正絹の生地などあれば良い。
- 本当に機屋は後継者問題や生産が少なくなっていて大変だと思うが、何とかしてこの問題を解決するためにも川上、川中、川下、皆で協力していくことが大切だと思う。
- 素材の風合いの良さ、特徴、例えば軽さ、しなやかさ、コシ、収縮といったものがアピールできる素材開発、提案があれば良い。今後の和装において、ニーズに応えるだけでなく創り手側からアピールできる素材がとても重要だと考えている。
- 和装だけでなく、洋装、洋品小物やインテリア素材等にもどんどん作品を増やしてほしい。

〔その他〕

- 今後とも伝統技術を守り、丹後産地が盛り上がるように頑張してほしい。
- 商品に染見本が付いていたのでわかりやすかったと思う。白生地のイメージと染め上がりのイメージと違うものが何点あったので見本は大切だと思った。

第1部（和装小物）

〔全体所見〕

- 白生地だけ見ても染め上がりのイメージがしにくかったが、今年は出品数に占める染見本が多くイメージしやすかった。今後も続けてほしい。
- 総体的に柄、組織に工夫が見られる。昨年より良かったと思う。半衿が少なかったのが残念だった。

第2部（先染織物）

〔全体所見〕

- 絹糸以外の使用や織組織の工夫など駆使されていて見応えがあった。洗える絹織物は今後のきもの普及にも活用できると感じた。
- 技術的にも素晴らしい作品も多く、とても勉強になった。要望としては、黒経の色（地）がもう少しきれいな色があれば良いと思った。
- 着尺を中心にデザイン性の高い、ワクワクするものが多かった。

〔産地へのアドバイス〕

- それぞれの機屋の特色が出ており、今後もユニークさを求めてものづくりしていただければと思う。
- 機能性が高い作品があればうれしい。（例、ストレッチである、色が変わるなど）
- まだまだ底力のある皆さんだと思う。ますますの活躍を楽しみにしている。

丹後・西陣両産地商況懇談会を開催

去る11月14日、定例の丹後・西陣両産地役員による懇談会を西陣織会館において開催しました。丹後側より松田忍先染代表理事をはじめ先染理事3名が出席、西陣側から長嶋秀樹、宮階有二両副理事長他4名の役員が出席し、丹工からの要望やそれぞれの産地の状況報告などについて意見交換を行いました。

意見交換では、丹後側より「稼動証明の証紙発行について」「消費税のインボイス制度について」「産地に機屋を残していくための手立てについて」などの主要課題を提案しました。

西陣側からは、証紙発行については「以前まではアウトサイダーが少なかったが最近は多くなってきているので、実態を詳しくデータとして出して相談させてほしい。」、インボイス制度については「制度の話はまだ聞いていない。この件について議論はし

ていないので何とも言えないが今後、検討課題として考えていきたい。」、産地に機屋を残していくための手立てについては「5年後、10年後を考えると親機、出機の激減が予想される。西陣メーカーもいつまで続けていけるか分からない。丹後との関連だけでなく、機料品店など関連業界にも言えることで、生活できない状況になってきており後継者もいないので廃業が続く。末端価格が異常である。」などの意見が出されました。

懇談会では両組合よりさまざまな意見や問題は出るものの、具体的な解決策がまとまるどころまで至っていないので今後、共通認識を持ちながら意思疎通を図っていく必要があることから、頻繁に両産地懇談会を開催し両組合内での会議のなかで出た課題等を持ち寄って、解決に向けて具体的な方向性を出して進めていくことを確認して終了しました。

令和元年度 丹後の職人・丹後ちりめんきもの大賞

組合では平成26年度より「丹後の職人」認定制度と「丹後ちりめんきもの大賞」表彰制度を創設していますが、このほど令和元年度の認定者及び表彰者を選定し、去る

12月20日開催の理事会の席上において認定式・表彰式を執り行いました。

丹後の職人

第6号認定

堀江 孝一 氏（京丹後市弥栄町）

「丹後の職人」は、産地の織物製造、また関連する様々な分野で長年従事され、その蓄積された技術を携える職人さんを認定するものです。

今回、認定された堀江氏は、昭和56年4月に西陣の機拵え職人、昭和60年4月に西陣の組立職人のもとへ弟子入りされ、さまざまな技術を習得されたのち、平成元年10月に丹後へ帰り独立されて今日に至っておられます。

機拵え・織機調整・織機の組立など、丹後の織物産業を支える数少ない職人として産地の振興発展に貢献いただいているとともに、その活躍の場は丹後にとどまらず日本各地の産地から仕事の依頼が舞い込むなど、堀江氏の高い技術力は万人が認めるところであります。

年齢的にもまだまだ若く、今後ますます技術力に磨きをかけられ、丹後の織物事業者とともに産地の発展にご尽力いただくとともに、ぜひ後進の指導にもあたっていただきその高い技術の継承にも努めていただきたいと思います。



丹後ちりめんきもの大賞

与謝野町婦人会（会長：芋田 保子 氏）

「丹後ちりめんきもの大賞」は、丹後地域において業界に大きく貢献しているきもの愛好家などを表彰するものです。

本年度は、与謝野町内の小学校の卒業式で卒業生へきものの貸し出しや着付けを行う活動を展開されている「与謝野町婦人会」を表彰しました。

与謝野町婦人会では与謝野地域を盛り上げる取組の一環として、平成19年からこの活動に取り組みされており、これからの丹後を担う子どもたちにきものの素晴らしさを伝えられています。この事業で使用されるきものは、会員の皆さんが与謝野町染色センターで染められたり、きものを仕立て直したりして年々数を増やしていき、今では希望する女子生徒すべてに貸し出せるまでになっているとのこと。保護者向けにも着付け教室を開催されるなど、和装産地「丹後」らしい活動を展開されていることが評価されたもので、本表彰制度を創設して初の団体表彰となりました。



（左）武田民子副会長（右）芋田保子会長



「Silk in Lyon 絹フェスティバル」 2019 に出展

丹後織物工業組合では、2019年11月21日から24日にフランス・リヨンにて開催された「Silk in Lyon 絹フェスティバル」へ出展いたしました。

日仏外交関係樹立160周年にあたり2018年9月に当時の皇太子殿下がリヨンを訪問したことをきっかけに、絹と密接な関係がある都市として京都市が特別招待され、京都から西陣織工業組合と丹後織物工業組合が出展しました。

フランス絹連盟、リヨン都市圏議会、リヨン市が主催する「Silk in Lyon 絹フェスティバル」は、今回で第二回目の開催を迎え、会場では「国際絹ネットワーク」(*1)の締結式や講演会などが行われ、講演会には当組合から今井英之理事長が登壇し、丹後ちりめんの歴史をはじめ、生産工程や丹後産地の目指す未来、丹後の食や観光など丹後地域の魅力を発信しました。

展示会場では共同展示会として西陣織工業組合と当組合、株式会社一吉、今井織物株式会社、江原産業株式会社、創作工房糸あそび、田上株式会社、丸仙株式会社、宮眞株式会社が出展しました。

会場では多くの来場者が丹後ちりめんなどの織物に触れ、丹後の高い技術力を実感いただきました。また、当組合で製造・販売を行っているスキンケアシリーズ「きぬもよふ」のサンプルについても高い評価をいただき、今後更なる発展が期待できる充実した出展となりました。

(*1)「国際絹ネットワーク」

絹による産業発展、観光・文化面での価値の創出、多様な分野への展開やコラボレーションの可能性等、絹に関する情報や経験を交換し合う場として創設されるネットワークであり、絹産業に関連する各国の都市等で構成される。



安田副理事長 三大学教養教育共同化講義 「京都の経済」出講

去る2019年12月16日(月)、安田章二副理事長が京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学の学生117名を対象に、三大学教養教育共同化講義「京都の経済」を行いました。

「「丹後ちりめん」の現状と課題、創業300年に向けた取組等」をテーマに、丹後産地の過去と現在、そして未来に向けた思いを学生たちに講義していただきました。

受講した学生からは「丹後が日本一の絹織物産地だと知らなかった、とても驚いた」「丹後ちりめんの着物を一度間近で見たい」「海外の見本市に出展したり、日本の高い技術のこだわりが世界で評価されているのは、日本人としてすごく嬉しい」「より多くの人に知ってもらいたい」と感じたなど、今回の講義を通じて丹後の魅力をひしひしと感じていただきました。





あけまして
一年で
ありますように
謹賀新年
皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます
いつの間にか五度目の年男
還暦の年 初心に選り
コツコツと 頑張っていきたいと
思います
加工場 小西雅史



謹賀新年
明けましておめでとうございます。
本年も宜しくお願ひいたします。
私、還暦を迎え、また新しい一歩を進めていきたいと思ひます。
十干十二支（じっかんじゅうにし）を一回り、節目です。
オリビック、丹後織物と今年は何か楽しそうに
予感いたします。（世界はちよっときれいな気がします）
皆様の「多幸」をお祈りします。
安嘉絹織株式会社
安田和司
令和二年



2020年は 日本が注目する3年
新しい ビジネスモデルもついて
日本も活性化させよう！
Happy New Year
素晴らしい一年になりますよう
お祈りいたします
2020.1.1
丹後オリビック創業30年
江原善孝(補) 江原英則

祝
福
還暦
年男
年女
輝



謹賀新年
精錬部の中核的役割を担い、
日々知識と技術の向上を目指し、
飛躍の年になるよう精進していく
所存です。
本年も何卒よろしくお願い
申し上げます。
加工場 小嶋正樹 榎男



謹んで初春の
およろこびを
申し上げます
今年で入社十四年目
これまでの経験をさらに
活かせるよう努力し
飛躍の一年に
本年もよろしく
お願い申し上げます
加工場 西馬良樹

広 告

CGS2フォーマット対応ジャカードコントローラー

佐和染織工芸 ハリサ工業 エイチ・ケイ・サムテック **ダイレクトジャカードにも**
 エイチ・ケイ・サムテック **SEJ電子ジャカードにも**
 これまでのフロッピーディスクを使用しないCGS2フォーマット規格に対応した
 コンパクト設計のコントローラーです。
 光ファイバー仕様の佐和式ダイレクトジャカード・電子ジャカードに対応します



USBメモリーで製織 CGS2 Mini コントローラー



既存コントローラーの改造も可能で織戻し 一枚戻し 三枚戻し等も今まで通り操作することができます
 USBメモリーに保存した複数の紋紙データを読み出して製織できるようになります
主な操作機能・特徴
 一枚送り 一枚戻し 三枚戻し 織戻し 織戻し時交換(杼箱)合わせ 先頭呼出し 越番指定呼び出し
 越番加算・減算呼出し 繰り返しカウンター停止信号 外部APF信号戻し
 USBメモリーに保存したCGS2 データを製織時に読み込み・稼働します(製織準備時間30秒以内)
 USBメモリーに最大 80 柄まで保存・選択製織可能
 エンドレス 2000 口 200rpmまで対応(どちらか片方上限値)
 OS・ハードディスクを使用しない専用基板 高信頼設計 低消費電力

佐和染織工芸の伝統と技術の継承
 これまでに国内1万台以上の実績 国内ダイレクトジャカードのスタンダードです
 エイチ・ケイ・サムテックは紋織リジャカード装置を通じて製織現場の信頼性を支え続けてまいります

製品のお問い合わせ先

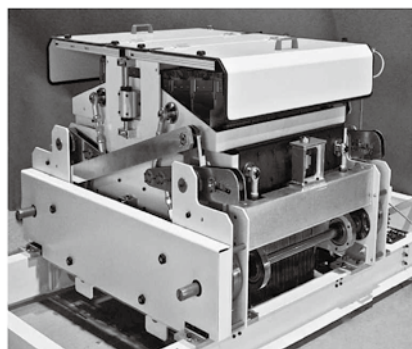
丹後地区代理店	梅田機料品店	京丹後市網野町浜詰 678-29	0772-74-0616
	小牧機料品店	与謝郡与謝野町算所 463	0772-43-1121
	丹後ダイレクトサービス	与謝郡与謝野町幾地 1652	0772-42-4413
	ダイレクト・今井	与謝郡与謝野町石川 2324	0772-42-4445
	フナト機工有限会社	京丹後市網野町浜詰 678-33	0772-74-0347

製 造 元

有限会社エイチ・ケイ・サムテック 岡山県美作市北山1001 0868-73-6166

技術集団 CSS 自社開発の製品一覧

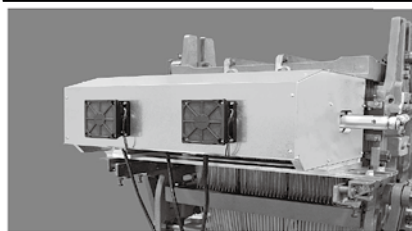
単動式電子ジャカード



特 徴

- 棒刀・ふみせも対応
- 口数は自由設計
- メンテは
タテ針とカセット交換
- ・ 最先端型業種に認定
- ・ 地域資源認定
- ・ 技術革新事業認定
- ・ 特許番号(5326149号)

ダイレクトジャカード



- ・ 商標登録 (5416906号)

タ イ プ

- 西陣 ■ 桐生
- エンドレス

- ・ 特許番号 (4747308号)

コントローラー (佐和・カヤバ対応)

A O



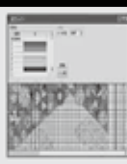
- FD・USB・LAN 対応
- CGS・CGS II 対応
- 紋彫修正が可能
- CGS⇄CGS II 双方変換

AO - Light II



- USBメモリ 対応
- CGS II 対応
- タッチパネル操作
- 検索絞込可能

紋紙データ管理「みこし」



- FD⇄USB
双方向変換
- 紋紙データ
管理
- シーケンス

USB ドライブ



- 交換は
FDドラ
イブと同
じ
- CGS II 対応

開発・製造・販売



CSS株式会社

(本社) 〒482-0003 愛知県岩倉市曾野町 7 0 9 番地
 TEL (0587) 37-9131 FAX (0587) 37-9061

(岩倉工場) 〒482-0002 愛知県岩倉市大市場町郷廻 3 1 2
 URL: <http://www.css-corp.jp/> E-mail: ao@css-corp.jp



編集後記

新年あけましておめでとーございませう。
さて、いよいよ「丹後ちりめん」がこの世に出てから300年の年を迎えた。この記念すべき年に立ち会えることを光栄に思うとともに、さらに100年、200年と続いていくように受け継がなければならぬと気が引き締まる思いがする。それと同時に、「丹後精好」から「丹後ちりめん」、その先に続く「丹後〇〇」が新たに生まれることも期待したい。

(MU)

共販ニュース

丸ゴム

丸福製紐(株)製のホシ☆ワジャク印の丸ゴムです。

▼6本丸 30mカセ

▼皮糸ースフ糸 中芯ー天然ゴム 日本製



かけつぎ針(糸)

かけつぎ専用の鳩杵印の糸八針、25本入りです。

▼極細針 長さ約2.7cm



1束 1,120円(税込)

1包 1,320円(税込)

丹後ちりめん創業300年PR事業交付金 (二次募集)の交付決定

丹後ちりめん創業300年事業実行委員会では、令和元年度丹後ちりめん創業300年PR事業交付金事業(二次募集)において1件の事業を採択し、令和元年11月29日付けで交付金の交付決定を行いました。

■概要

丹後ちりめん創業300年事業実行委員会では、2020年の丹後ちりめん創業300年に向けて、より一層の情報発信、機運醸成を図るため、丹後地域内の住民団体が令和元年度に取り組む丹後ちりめん300年PR事業と連携し、支援するための交付金対象事業を募集し、住民団体から交付申請を受け、本年8月29日付けで交付決定を行った2件に引き続き、二次募集において、次のとおり1件の交付決定を行いました。

- 団体名：特定非営利活動法人わくわくする久美浜をつくる会(京丹後市)
- 事業名：TANGO Kids Dream Show

[問い合わせ先]

丹後ちりめん創業300年事業実行委員会 事務局
TEL 0772-68-5222 / FAX 0772-68-5300
E-Mail 300info@tanko.or.jp

[丹後ちりめん創業300年事業実行委員会 <構成団体>]

丹後織物工業組合／丹後機械工業協同組合／宮津商会議所／京丹後市商工会／伊根町商工会／与謝野町商工会／(公財)京都府丹後文化事業団／(一社)京都府北部地域連携都市圏振興社(海の京都DMO)／(株)京都銀行／京都北部信用金庫／但馬信用金庫／丹後海陸交通(株)／WILLER TRAINS(株)／京都府／宮津市／京丹後市／伊根町／与謝野町